

演題名 当センターにおけるせん妄患者の実態調査と薬剤の関連性について

兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

○藤田 真穂、十川 依子、森永 皓子、足立 萌、寺崎 展幸、井上 智恵、  
藤原 康浩、西窪奈津子、横田 聖子、織邊 聡、西尾 孝、福井 英二

#### 【目的】

せん妄は年齢、環境、薬物等複数の要因が組み合わさって急激に発症する精神症状であり、せん妄発症事例の中で約 30%に薬剤が関与するという報告がある。そこで、当センターにおけるせん妄の実態調査を行い、せん妄と薬剤の関連性について報告する。

#### 【方法】

対象は 2015 年 7 月に当センターの認知症・せん妄チームが介入した、せん妄患者、8 症例とした。電子カルテで年齢、性別、診療科、手術の有無、処方薬、持参薬などについてレトロスペクトルによる調査を実施した。処方薬、持参薬についてはせん妄を誘発すると報告のある、抗パーキンソン病薬、H<sub>2</sub>受容体拮抗薬、ステロイド剤、抗ウイルス薬、β遮断薬、抗てんかん薬及び向精神薬の投与状況を調査した。

#### 【結果】

対象となった 8 症例の平均年齢は 78.5±7.16 歳で全員 65 歳以上であった。投与状況はせん妄を誘発する薬剤を処方されていた患者は 6 名で H<sub>2</sub>受容体拮抗薬、ステロイド剤、抗パーキンソン薬、β遮断薬が処方されていた。そのうち入院前から継続して服用していた患者は 4 名であった。またせん妄発症前にファモチジン、プレドニゾロンなどの誘発する薬剤を投与開始、投与量を増量している事例が 2 症例、腎機能低下による薬剤の過量投与が 1 症例あった。

#### 【考察・結論】

オメプラゾールからファモチジンに変更した翌日にせん妄を発症した症例が 1 症例、プレドニゾロン 20mg から 60mg に増量し、せん妄を発症した症例が 1 症例あったため、これら薬剤はせん妄を誘発する要因の一つとなると考えられる。

今後はせん妄発症予防の取り組みとして、高齢者でせん妄誘発のリスクが高い薬剤を投与している患者に対して、プロトコルの作成や病棟業務において、せん妄を誘発する薬剤を投与開始時、増量された時は特に注意して観察し、医師に減量、代替え薬の提案をするなどして、せん妄の早期発見、予防に貢献していきたい。